

歴史講座「三河一向一揆」

2014.10.9

今回の講座は一向一揆について、津田先生のお話を聞いてその後拠点となった三河のお寺を見て回った。東浦は於大が岡崎の松平に嫁いだことで、徳川家康とのかかわりも大である。家康が手を焼いた三河一向一揆では、緒川の水野信元が助けて勝利し、三河統一を実現したと言われる。その一向一揆の拠点となったお寺を訪ねた。

1 蓮如さん建立の本宗寺

浄土真宗本願寺派土呂殿本宗寺は、応仁 2 年(1468)蓮如上人が額田郡土呂の郷に創建しました。しかし、永禄 6 年(1563)三河に広がった一向一揆兵乱により、三河の本願寺派の主要な寺院同上はことごとく破壊され、宗門禁制の悲運をこうむる。本宗寺も伽藍を取り壊され寺は一時断絶する。天正 11 年(1601)家康の叔母(於大の姉妹で石川清兼の妻)である芳春院妙西尼の再三にわたる懇請の結果、宗門再興の赦免状が発せられ復興を許されました。



徳川家康の家臣石川数正のお墓



芳春院妙西尼の墓

明治維新後寺領は国有地となりましたが、本堂・庫裏・石川数正の墓・書院は残されました。昭和 43 年火災により本堂を焼失、貴重な寺宝を亡くしました。この寺には芳春院妙西尼の墓と、徳川家康の家臣石川数正のお墓があります。数正は信長の命令を受けた家康の命により、大樹寺において水野信元を殺害した人物。しかし、後に豊臣方に

出奔し和泉国10万石に封ぜられ、その年信濃国松本8万石を賜り松本城を築きました。

2 お城のような「本證寺」

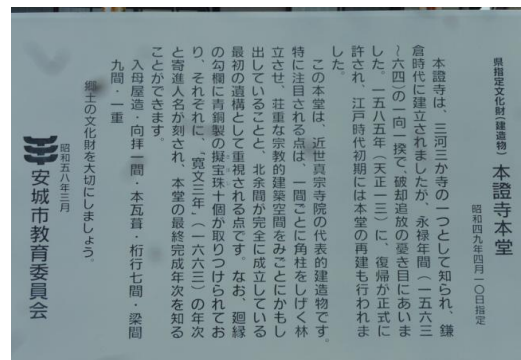
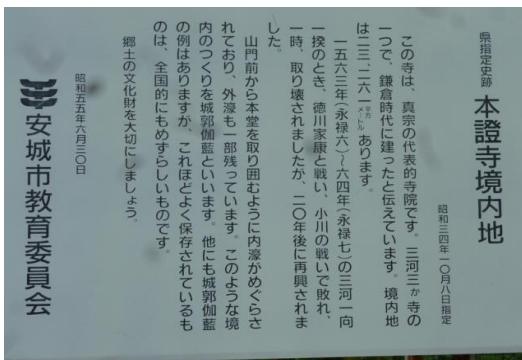
三河三か寺(本證寺、上宮寺、勝鬘寺)の一つで、鎌倉時代に建ったと言います。三河一向一揆のとき徳川家康と戦い敗れ一時取り壊されましたが、20年後に再興されました。山門から本堂を取り囲むように内濠がめぐらされており、外濠も一部残っています。このような境内の造りを城郭伽藍といいます。角には櫓のような太鼓楼があり、ちょっと見た目にはお城と変わりません。この境内は愛知県指定史跡になっています。また、本堂は近世宗教寺院の代表的建造物です。特に注目されるのは、一軒ごとに柱を林立させ見事な空間をかもしだしていることです。この本堂も県指定文化財となっています。



外濠と太鼓楼



本堂は県指定文化財



安城市教育委員会の説明板

3 妙源寺

ここは三河真宗最初の道場と言われる。開基は河内国阿倍野から移り、在地領主となった安藤薩摩守信平である。安藤氏が奉持した聖徳太子直作の尊像を安置した太子堂と言われる「柳堂」は国指定重要文化財となっている。4枚の棟札が残されており、現在の堂は正和3年(1314)から慶長18年(1613)までの再建と考えられている。三間四方、寄棟造り、桧皮葺の堂の屋根を見ると修復された跡が分かる。



「柳堂」は国指定重要文化財



安藤家のお墓

★三河一向一揆(1563)

永禄6年(1563)の秋、三河で一向一揆がおきた。三河では古くから浄土真宗進行が盛んで、15世紀後半には蓮如布教により本願寺派寺院が成立し、一向宗(真宗本願寺派)の勢力地盤であった。

三河一向一揆は、家康の家臣が一向宗寺院の不入権を無視して、兵糧米を徴収しようとしたことに対し、一向宗門徒が反発したために起こったと言われる。

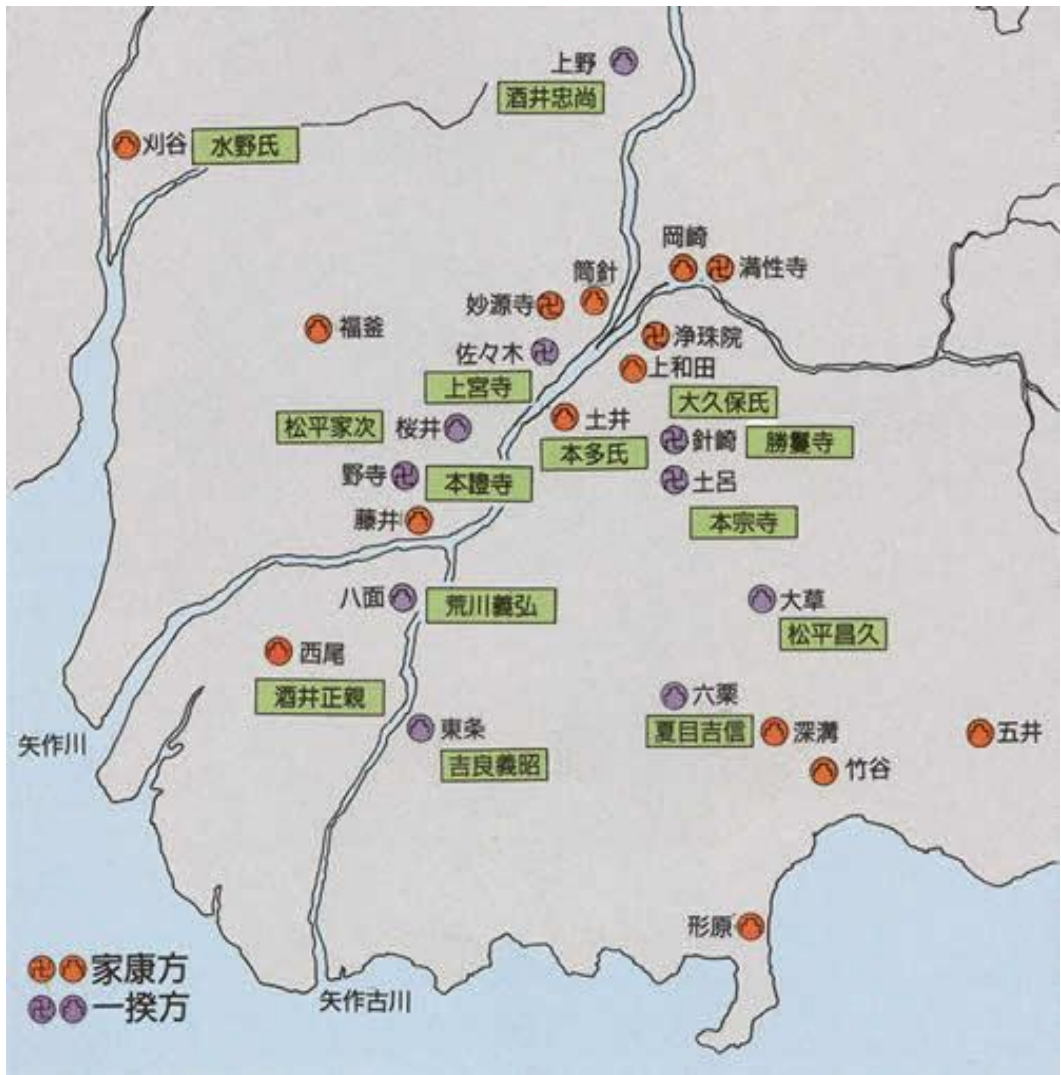
一揆側

土呂本宗寺や三河三か寺と言われた佐々木上宮寺・針崎勝鬘寺・野本本證寺、東条城の吉良義昭などの武士、家康家臣の本田正信・蜂屋貞次

家康側

満性寺・妙源寺・浄珠寺

一揆方と家康の戦いは、翌年2月まで断続的に続き、3月にいたり和議が成立した。



★一向宗禁制

三河一向一揆平定後の永禄7年(1564)5月、家康は一向宗方に改宗を命じた。これに伴い寺院や道場は破壊し、坊主を追放した。勝鬘寺は信濃井上へ、上宮寺の勝祐・信祐親子は尾張菟安賀に退去した。武士門徒の多くも転宗した。以後、20年間三河では一向宗は禁止された。その後、三河で一向宗が赦免されるのは天正11年(1583)で、それ

には家康の伯母にあたる妙春尼(妙西尼とも言う、於大の姉、石川日向守家成の母)の熱心な働き掛けがあった。

しかし、このとき環住が許されたのは、一般の寺院・道場で、一向一揆の中心となった上宮寺・勝鬘寺など7か寺については認められず、それが許されたのは同13年になってからである。